

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	母 丹
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation)			
中国における宮沢賢治文学の受容			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	准教授	下岡 友加	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	有元 伸子	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	妹尾 好信	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	溝淵 園子	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	青木 美保 (福山大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、1939年～2020年までの約80年間の中国における宮沢賢治文学の翻訳受容の様相を調査し、考察したものである。各翻訳事例の考察においてはイーヴン＝ゾウハーのポリシステム理論、ルフェーヴルのリライト理論を採用し、翻訳作品の選定とリライトの実際の表現の在り方から、そこに反映されたイデオロギーと詩学を明らかにした。</p> <p>第I部は受容の発生期である1930～40年代を考察対象とする。</p> <p>第1章では、北京近代科学図書館の会報『書滲』掲載の銭稻孫「北國農謡」（「雨ニモマケズ」）を論じた。作品の選定には「対支文化事業」という日本側のイデオロギーの介入が見られるが、主題の変更には訳者・銭稻孫の道家思想が関わっていることが述べられた。</p> <p>第2章では、雑誌『華文大阪毎日』掲載の「翻訳文学特輯」企画を検討した。媒体の性格や翻訳作品の選定、表現の具体から、訳者である戦時下の在日「満州」文化人の学習グループ（中国人編集者）の抗日精神が抽出された。</p> <p>第3章では、雑誌『華文大阪毎日』掲載の白樺（于明仁）訳の宮沢賢治詩五章を論じた。表現の具体と訳者白樺の経歴を踏まえて、リライトに託された中国人民に対する励ましのメッセージが読み取られた。</p> <p>第4章では、季春明訳『風大哥』（『風の又三郎』）を論じた。「季春明」とは国民党の地下党員・王恒仁の仮名である可能性が指摘された。王は当時スパイとして「満洲」協和会中央本部文化部に潜入しており、その役割から『風の又三郎』の選定理由が考察された。</p> <p>第5章では、華字女性雑誌『女聲』掲載の陳緑妮訳「定件繁多的館子」（「注文の多い料理店」）を論じた。『女聲』主幸者・田村俊子の履歴や背景から、俊子が「戦争や帝国主義への反感」という読みの可能性さえ含む同作品をあえて選定したと論じた。</p> <p>第6章では、「定件繁多的館子」の訳者・陳緑妮の履歴や背景が明らかにされた。旧来、武田泰淳の小説モデルとして認識されていた陳と、新資料にもとづくその像の間には大きな隔たりがあることが指摘された。</p>			

第Ⅱ部は1950年代以降の受容の沈黙期・復活期・全盛期を考察対象とする。

第7章では、受容の沈黙期における唯一の訳本（翻訳絵本）『小木偶拉大提琴』（「セロ弾きのゴーシュ」）を論じた。リライトは、時代の要請に合わせて対象読者である低学年の子供に配慮したわかりやすさと「進歩的」な価値観をもとに成長物語として造型されたことが述べられた。

第8章では、受容の復活期における王敏訳「花様翻新的飯店」（「注文の多い料理店」）と『日本文学』の企画「宮沢賢治特集」を論じた。これらの掲載時期は改革開放初期にあたり、文革時代の価値観が未だ強く残されていた。当時のイデオロギーに合わせて、訳者による多くの「操縦」が施されていることが明らかにされた。

第9章では、図書出版の市場化が成熟した2000年以降における受容の全体的な状況を考察した。翻訳出版、研究のみならず、絵画、アニメ、映画、演劇等のアダプテーションの実態が調査された上、依然として見られるイデオロギーの影響が指摘された。

本論文は宮沢賢治文学の翻訳事例から、それらを成り立たせた多面的なシステムを明らかにするとともに、個別の例を結ぶことで中国における戦前戦後の受容の変遷の総体を明らかにした。各訳者の背景のさらなる追究や双方向である日中文化交流史を踏まえる必要性などの課題は残されるが、賢治文学のみならず、今後の日中翻訳・受容研究において参照されるべき重要なアプローチを含む論文と高く評価することができる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)